

分子触媒ネットワークの紹介

人工光合成研究において、水分解もしくは CO_2 を還元するための主役を演じるのが光触媒である。光触媒反応系を大きく区分すると、光触媒として半導体を用いた不均一系、金属錯体等を用いる、もしくは一部酵素を活用する均一系になるだろう。前者は、半導体光触媒ネットワークが、酵素を用いる系は酵素エンジニアリングネットワークが担当し、我々分子触媒ネットワークは、人工的な分子をレドックス光増感剤や触媒として用いる研究を主に行っている。

代表は、石谷が務めさせていただく。・・・